

高温期アスパラガス栽培管理（立茎後～高温期の栽培）

R8.7アグリ技研（株）

1.夏秋芽・春芽の収量安定や増加は夏場からの茎葉維持で決まります！！

①高温期化から晩秋までの茎葉管理について

- (1)斑点（褐斑）性や害虫（ダニ・ヨトウ）の被害を最小限に抑える。
- (2)高温での茎葉損傷を最小限に抑える。（下温対策）
- (3)もう一度、施設における斑点性など多くなる要因の整理。

②耕種的対策について

- (1)梅雨明け後は、ハウス内温度を極力下げる対策を講じる。
 - ・サイド面の開閉は摘芯位置より高くします。
 - ・遮光資材・塗布剤の使用は高温期のみ（養分転流時期の光合成作用）
 - ・地下水の高い圃場は灌水調整（収量減・地下茎の褐色・生育停滞）

(2)薬剤対策について

- ・登録剤による予防的散布と天候による実施。
- ・効果高（ダコニール1000・ロブラール水和剤・コサイド3000）
- ・肥料的資材による**鉄ビタ（二価鉄）にパチルスプロ1000倍の混用散布**

③現場で見かける斑点病の比較的多い圃場環境として

- (1)ハウス内の高温多湿状態。（構造上、排水条件、灌水量）
- (2)薬散時期の遅れ（立茎直後）と効果剤の選択（降雨前後の未防除）
- (3)8月上旬からの薬散回数の減少。（褐斑の潜伏期間は30日）
- (4)高温期のハウス開閉の遅れによる高温多湿。
- (5)二次側枝や若茎葉の過剰、放任による受光通風の低下。
- (6)立茎の多さや側枝の整理不足による受光低下。
- (7)毎年同様な発生状況であった。（残渣）
- (8)茎葉を硬化する対策資材の未使用。（**PKゴー2000倍やシリカ水1000倍**）

アスパラガスの光合成作用の条件とは

- ①光の強さ：光補償点（必要）は15,000～20,000lx
- ②適温：20℃±5℃（夏場のハウス内温度は日中35～45℃）
- ③CO₂濃度は高く、十分な水に十分なカリ肥料（糖分の精製利用）